

この街に
この人あり

子どもたちの驚きと 発見が私たちの喜び



林野俊彦・基子ご夫妻

“南京玉すだれ”と 昔遊び(コマやけん玉など)をセットにして、小学校の授業の中で子どもたちを指導したり、ゆうゆう館やデイサービスなどの高齢者福祉施設等で技を披露している南荻窪にお住いの林野俊彦・基子ご夫妻にお話を伺いました。

この活動を始めたきっかけ

俊彦さんは「20年前、まさかこんなことをやるとは思っていませんでした。」と述懐しています。

たまたま地域の子どもたちやお年寄りを集めて昔遊びの活動(竹とんぼなど)をしていた先輩から誘われました。そして、基子さんの勧めで玉すだれ教室を受講したことから、その先輩に「玉すだれも作ってくれ」と、自宅に竹を持って来られ、玉すだれの製作も始めました。こうしてまもなく、昔遊びの中に玉すだれも加わるようになりました。

現在の活動内容

それから3年後の2005年に独立して新たな会を作り、玉すだれをメインに、昔遊びをセットした伝統芸や昔遊びの継承活動を現在も続けています。

地域ごとに会を作り、他の地域でも活動しています。杉並区では“如月(きさらぎ)会”という組織です。指導や出演の要請があると、参加できる会員数名のチームで対応します。

子どもたちの指導、高齢者施設の慰問、会員への指導など、月に10日程の活動です。基子さんは、俊彦さんをサポートして活動しています。



荻掛小での指導風景

子どもたちの驚きと発見

ほとんどの子どもたちは玉すだれを知らないもので、初めて玉すだれの演技を見ると、例外なく興味を示します。そして実際に自分でやってみたくと思う子も多く、やってみると「指の動かし方だけでこんなことができるんだ!」とますます関心が高まるようです。

前職を生かした指導

俊彦さんの前職は、都立高校の物理の教師でした。その経験を生かして、子どもたちを指導しています。

例えばけん玉の場合なら「上昇した玉が最高点で一瞬静止した状態の時であれば、簡単に玉をお皿に受けることができる」と教えます。

「物体の運動を自分の立場ではなく、相手の立場で捉えようと腑に落ちる」という物理の先生らしい科学的な教え方が特徴です。

玉すだれ活動の効果

玉すだれの活動を「心身の健康や美容に良し。自分のためではあるが、同時に、地域・社会・近隣・友人・家庭での親睦に貢献する」とふりかえり、一緒に活動する新しい仲間を望まれています。

お問合せ先

桑村 初子 ☎03(3334)3151 (如月会会長)
林野 俊彦 ☎03(3333)1008

インタビュー後記

“南京玉すだれ”は、実は日本で生まれたもので、江戸期から大道芸として演じられました。インタビューを終えて、俊彦さんが考案された立体的折り紙・万華鏡 [写真] をいただきました。

これらの日本が誇る伝統芸能がいつまでも保存され、もっと普及したらいいなあと思いました。

